青少年教育施設ボランティア実践のための意欲・能力を育成

ネイパル砂川

ボランティアセミナー

1　事業のねらい

ボランティア活動についての基礎的な知識や技術を学び、青少年教育施設ボランティアとしての実践する意欲や能力を育成する。

2　事業の概要

■期日　R６.６.15(土)～16 日(日)　一泊二日
■対象　高校生以上
■人数　17 名（高校生１名　大学生 16 名）
■場所　北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川

3　プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
15日(土)	12:30 受付開始							出会いの集い	アイスブレイク	講義 ボランティアの意義と実践	野外炊飯			野外炊飯の振り返り	入浴 自由交流	就寝

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	
16日(日)	起床	朝食 活動準備	部屋点検	ニュースポーツ体験		昼食	振返り	13:30 解散

4　ねらいを達成するための活動の工夫

■ネイパル砂川の施設ボランティアとして必要な技能の習得
今後の活動の中で指導する機会が想定される野外炊飯、ニュースポーツの他に宿舎点検の演習を行った。
■ボランティア活動全般の基礎的な知識や技能の習得
ボランティアの定義や理念の講義や福祉分野などでも生かせるニュースポーツの指導など、事業全体の中でネイパル砂川以外でも生かせる知識や技能を身に付ける活動をした。

モルックの体験と
指導を想定した審判体験

指導場面を想定した野外炊飯実習

5　事業の評価

■参加者の感想
・事前にどのような危険性があるのかを把握することで子どもたちの行動を予測して支援、指導が行えると学んだ。
・危険を理解していても活動している本人の視野は狭くなること。周りの支援者、指導者が目配り、気配り心配りは常に大切である。
・今回学んだことを生かせるような、小学生と関わるボランティアをしたいと思った。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●当施設の活動を想定した内容をしながら、講義でのボランティアの意義や心構えについて学び、その後の活動でもネイパルの活動に限らず役立つ知識技能であることを意識させて取り組むことで、当施設での子どもに対する教育的活動のみならず、高齢者や障がい者に対するボランティアに関心を持たせることができた。
○参加者がほぼ一つの学校から来ていた。広く参加者を集めるために、学校に直接訪問して事業の紹介をするなど、広報の改善が必要である。

企画のポイント

ネイパル砂川でのボランティアとしての技術を身に付けながら、ボランティア活動全般について学ぶ